



大会長からの開催メッセージ

第 7 回日本予防理学療法学会学術集会

大会長 吉田 剛
(高崎健康福祉大学)

今や日本は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、様々な活動の自粛を余儀なくされ、医療はもちろんのこと、地域で行われてきた様々な予防活動が行えない状況となり、これまで人と人との絆で乗り越えてきた様々な苦難を今は繋がることのできない状況で迎えています。一人ではなかなか続かなかった健康増進のための運動も、今までは集いの場を住まいの近くに作り、お互いに助け合いながら乗り越えてきました。このような状況を初めて経験する私たちはどのようにこの苦難を乗り越えたらよいのか、今こそ新たな知恵を出し合う時です。

多くの学会活動も中止や延期を余儀なくされている今、私たちはこれに負けず、工夫をして、予防理学療法を推し進め、今のコロナ後の世の中に貢献しなければなりません。第 7 回日本予防理学療法学会(第 3 回栄養・嚥下理学療法部門研究会、第 3 回産業理学療法部門研究会共催)は、群馬県高崎市に 4 月にオープンしたての G メッセ群馬で開催される予定でした。しかし、会場型の学会は秋まで開催できなくなり、急遽、WEB 学会での開催を目指すことになりました。すでに 200 演題以上の演題が本学会にエントリーされています。

私たちが幸せな明るい社会を作って未来を切り開いていくためには、子どもたちの運動器の機能低下を予防し、スポーツを楽しむ中で生じる障害を予防し、仕事で生じる腰痛などを予防し、適切な運動習慣を身につけて生活習慣病の発症を予防し、加齢変化で生じるフレイル、サルコペニア、認知症を予防することについてきちんと取り組んでいく必要があります。その中でも栄養と運動は、健康寿命の延伸には欠くことのできない大切な要素です。

理学療法士が地域社会の中で、その地域にある社会資源を掘り起して活用し、その地域のニーズに合った問題に対して、有効なアイデアや介入方法、教育機会を提供し、政策に対しても助言することができれば、予防で明るい未来を拓くことが可能であると考えています。

その力を蓄積するためにも以下の企画を立てました。学術大会企画においては、特別講演(リハ栄養の若林先生など)、教育講演、企業後援企画など、WEB 学会になっても盛りだくさんの内容を計画しています。会期は 2020 年 9 月 27 日(事前 WEB 閲覧は 9/20—26)です。会場を借りない分、参加費も会場型の半分に参加しやすく抑えました。一般演題についても、WEB 上での発表用パワポ及び原稿の閲覧にとどまらず、質問や意見を言い合えるような仕組みを考えています。

皆様、ぜひともこの学会に参加して高いレベルでの予防実践ができるための良い機会として頂けることを心より期待しています。